5-B-10

子どもとのふれあい遊びを通した保護者の子育て意識の変化

川井 綾[1)]
國崎大恩[1)]

子どもが保護者とともに遊ぶことは、子どもの成長にとって有意義であることが様々な研究によって明らかにされている。例えば、保護者とのふれあい遊びや運動遊びは、子どもの運動能力を高めるだけでなく、身体を動かすことへの意欲を高めることにも有効であることが諸研究によって示されている。他方で、子どもとともに運動遊びやふれあい遊びをすることが保護者にとってどのような意味をもつのかについての包括的な研究はそれほど行われていない。そこで本研究では、子育て総合支援施設 KIT での親子によるふれあい遊びの様子を継続的に調査・分析することを通して、保護者の子育て意識がどのように変化するのかに着目し、ふれあい遊びの包括的な意義を明らかにしたいと考えている。

本研究のスタートに位置づけられる本発表では、保護者と子どものふれあい遊び・運動遊びに着目したこれまでの先行研究を整理することにより、本研究の方向性を見定めるとともに、これまで見落とされてきた研究の視点を明らかにしてみたい。それは、保護者が子どもそのものに子ども自身の考えだけでなく自らの考えや周囲の考えを見いだすことにより、子どもが多様な視点の交錯する主体となっていることを浮き彫りにするものでもある。こうした視点の交錯する主体に対峙する保護者がふれあい遊びを通して自らの子育て意識をどのように変化させるのか、その分析方法についても本発表では明らかにする。

1）教育学部こども教育学科